

川越市
子ども・子育て支援に関する
アンケート調査結果報告書
【概要版】

平成 26 年 3 月

川越市 こども政策課

目 次

調査の概要.....	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査の種類、対象者及び実施概要.....	1
(3) 回収結果.....	1
1. 子どもと家族の状況について.....	2
1-1. 子どもの年齢.....	2
1-2. 子どもの数.....	2
1-3. 子育てを主に行っている人.....	3
2. 子育ての育ちをめぐる環境について.....	3
2-1. 子育てに日常的に関わっている方（施設）（複数回答）.....	3
2-2. 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人（複数回答）.....	4
2-3. 子育てをする上で、気軽に相談できる人.....	4
2-4. 子育てに関して、気軽に相談できる先（複数回答）.....	5
3. 保護者の就労状況について.....	6
3-1. 保護者の就労状況.....	6
3-2. パート・アルバイト等で就労している人のフルタイムへの転換希望.....	7
3-3. 就労していない人の就労希望.....	8
3-4. 就労していない人の就労を希望する時期.....	8
4. 子どもの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について.....	9
4-1. 幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」の利用.....	9
4-2. 利用している事業（複数回答）.....	9
4-3. 事業を利用している理由（複数回答）.....	10
4-4. 事業を利用していない理由（複数回答）.....	10
4-5. 平日の教育・保育の事業として、定期的に利用したいと考える事業（複数回答）.....	11
5. 土曜・日曜や長期休暇中の保育事業の利用希望について.....	12
5-1. 土曜日の利用希望.....	12
5-2. 日曜・祝日の利用希望.....	12
5-3. 幼稚園利用者の長期休暇期間中の事業の利用希望.....	13
5-4. 「幼稚園」を利用している方が長期休暇期間中、たまに利用したい理由.....	13
（複数回答）.....	13

6. 病気の際の対応について.....	14
6-1. 事業が利用できなかった場合の対処方法（複数回答）.....	14
6-2. 病児・病後児のための保育施設等の利用希望.....	14
6-3. 子どもを預ける場合の望ましい事業形態（複数回答）.....	15
7. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について.....	15
7-1. 不定期に利用している事業（複数回答）.....	15
7-2. 現在利用していない理由（複数回答）.....	16
7-3. 不定期の保育・教育事業や一時預かり等の利用希望.....	16
7-4. 子どもをを泊りがけで家族以外にみてもらったことがあったか.....	17
8. 小学校就学後の放課後の過ごし方について.....	18
8-1. 放課後の過ごし方.....	18
8-2. 土曜日の放課後児童クラブの利用希望.....	19
8-3. 日曜・祝日の利用希望.....	19
9. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について.....	20
9-1. 父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得したか.....	20
9-2. 育児休業給付と保険料免除の認知度.....	22
9-3. 短時間勤務制度の利用.....	22
9-4. 川越市の子育ての環境や支援への満足度.....	23

調査の概要

(1) 調査の目的

この調査は、子ども・子育て支援法（平成 24 年法律第 65 号）に基づく「子ども・子育て支援事業計画」を策定するにあたり、市民の教育、保育、子育て支援に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」を把握するために実施しました。

(2) 調査の種類、対象者及び実施概要

この調査の種類と対象者及び実施概要は下表のとおりです。

●調査の種類と対象者

種類	対象者	対象者数
就学前児童保護者用アンケート	就学前児童がいる家庭の保護者	2,300 人

●実施概要

就学前児童保護者用アンケート：郵送配布、郵送回収

（発送：平成 25 年 10 月 4 日（金）、回収期限：平成 25 年 10 月 18 日（金））

(3) 回収結果

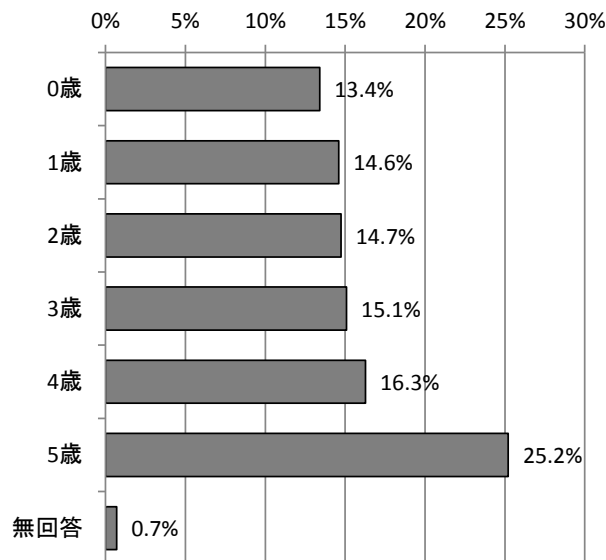
区 分	調査票配布数	有効回収数	有効回収率
就学前児童保護者用アンケート	2,300	1,432	62.3%

1. 子どもと家族の状況について

1-1. 子どもの年齢

子どもの年齢（平成 25 年 11 月 1 日基準）は、「5 歳」の割合が 25.2%と最も高く、その他の年齢は 15%前後となっています。

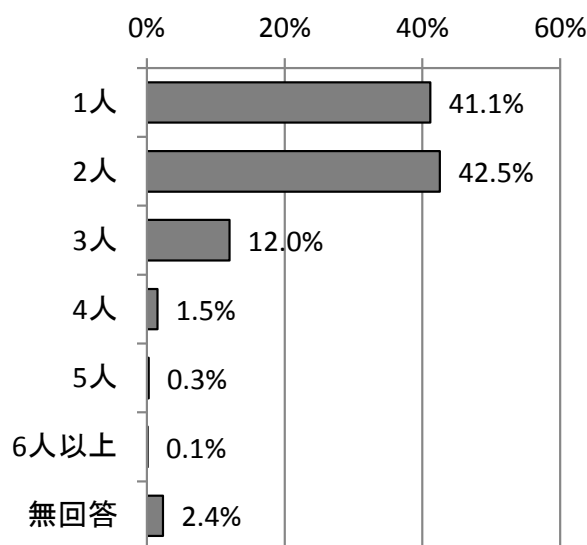
(n=1,432)



1-2. 子どもの数

1 世帯あたりの子どもの人数は、「2 人」の割合が 42.5%と最も高く、次いで「1 人」が 41.1%、「3 人」が 12.0%となっています。

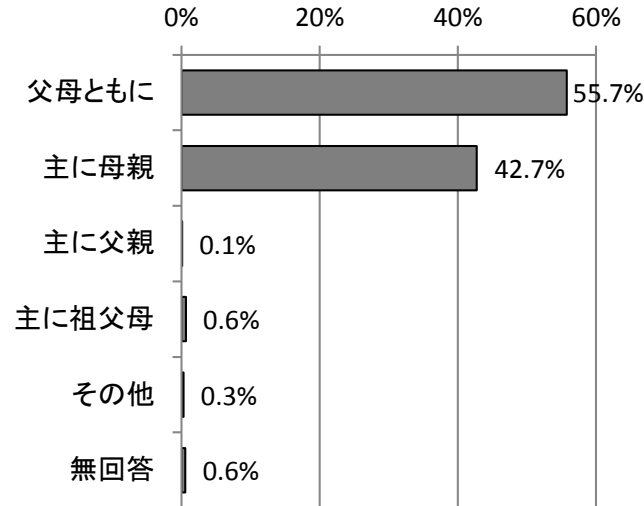
(n=1,432)



1-3. 子育てを主に行っている人

子どもの子育て（教育を含む）を主に行っているのは、「父母ともに」の割合が55.7%と最も高く、「主に母親」が42.7%と続いています。

(n=1,432)

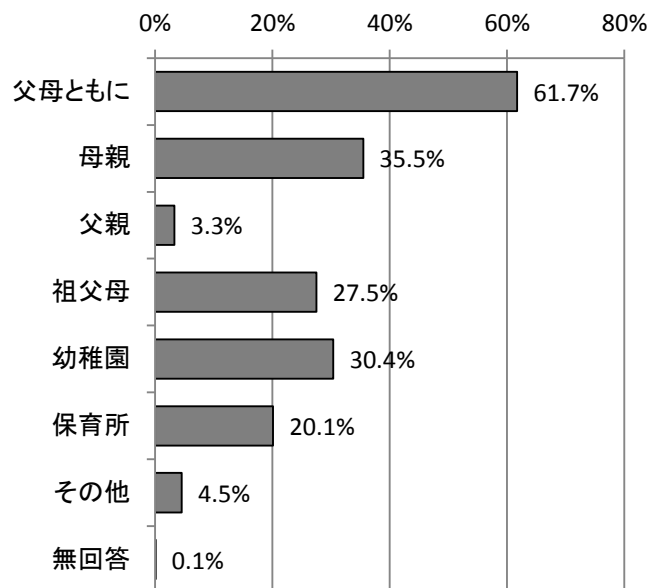


2. 子育ての育ちをめぐる環境について

2-1. 子育てに日常的に関わっている方（施設）（複数回答）

子どもの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方は、「父母ともに」の割合が61.7%と最も高く、次いで「母親」が35.5%と続いています。また、「幼稚園(30.4%)」「祖父母(27.5%)」「保育所(20.1%)」の割合も比較的高くなっています。

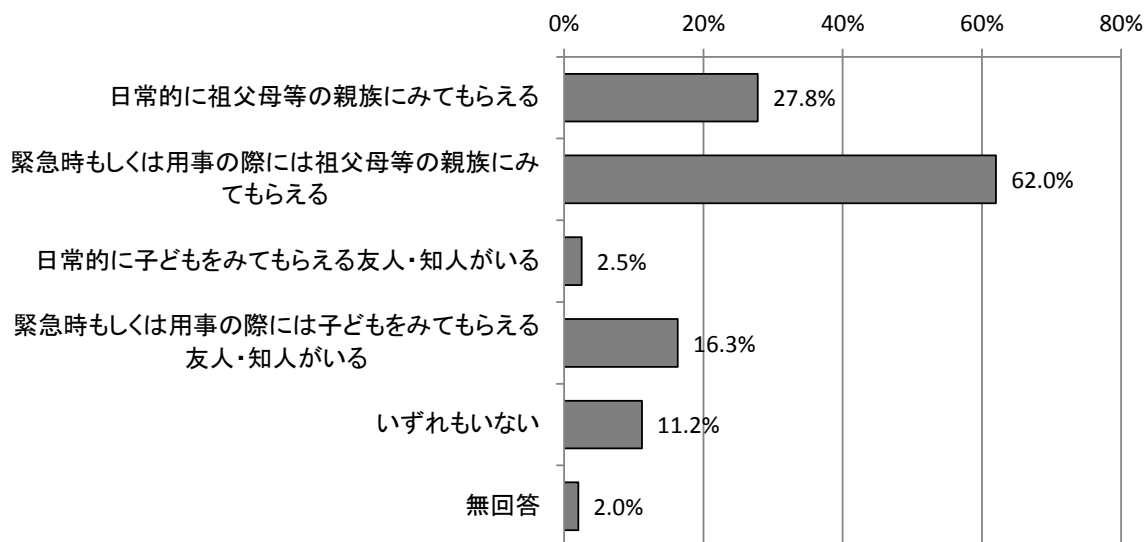
(n=1,432)



2-2. 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人（複数回答）

日頃、子どもをみてもらえる人の有無をみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が62.0%と最も高く、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が27.8%と続いています。

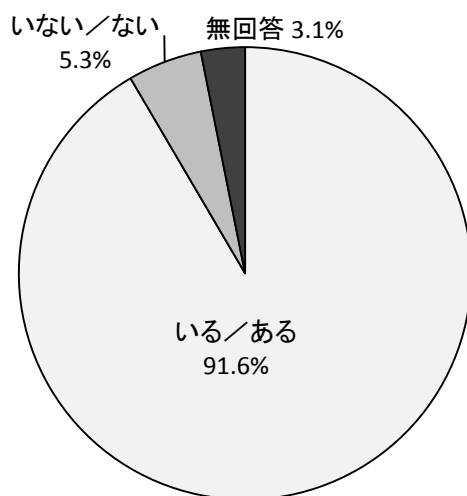
(n=1,432)



2-3. 子育てをする上で、気軽に相談できる人

子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人及び場所の有無は、「いる／ある」が91.6%に対し、「いない／ない」が5.3%と、「いる／ある」の割合が大きく上回っています。

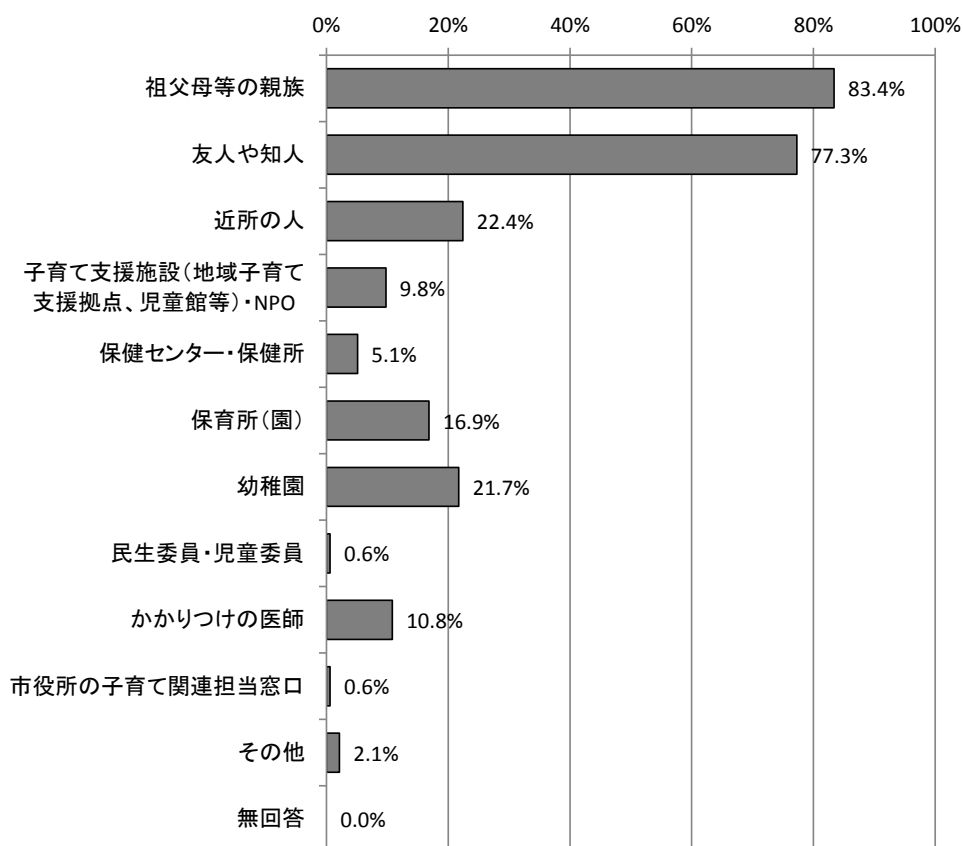
(n=1,432)



2-4. 子育てに関して、気軽に相談できる先（複数回答）

子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、「祖父母等の親族」や「友人や知人」など、身近な人が7割を超えています。

(n=1,432)



3. 保護者の就労状況について

3-1. 保護者の就労状況

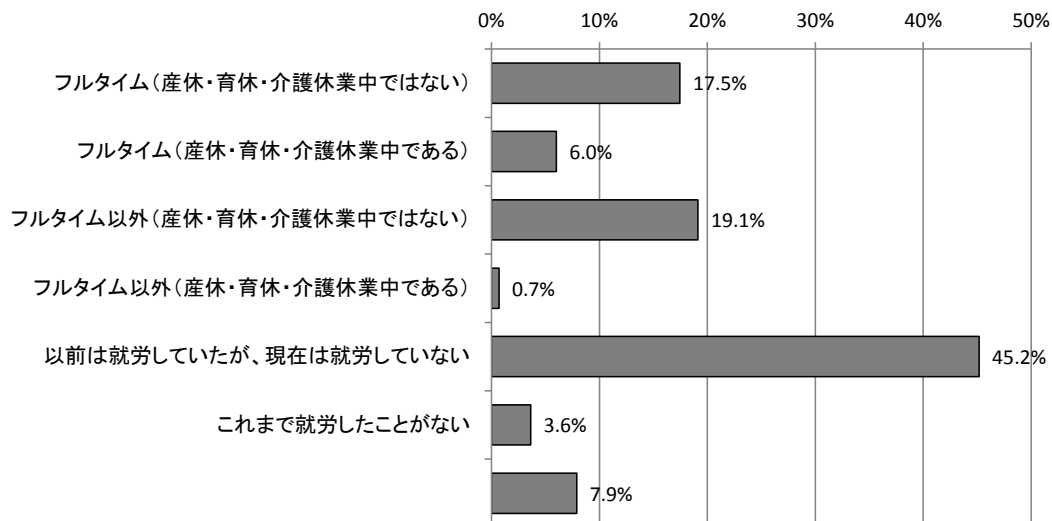
母親の就労状況は、「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が45.2%と最も高くなっています。

就労している母親のうちでは、「フルタイム以外（産休・育休・介護休業中ではない）」の割合が19.1%と最も高く、「フルタイム（産休・育休・介護休業中ではない）」の割合は17.5%となっています。

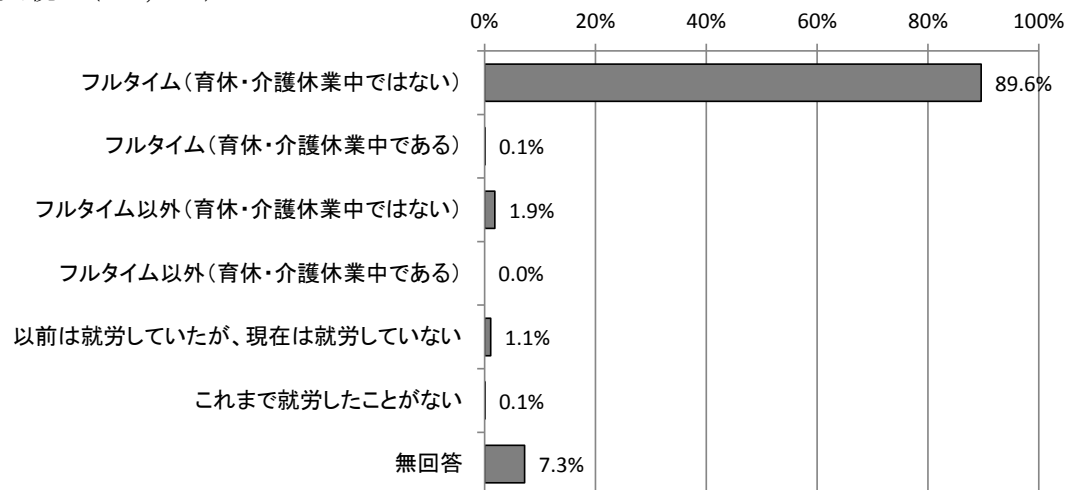
産休・育休・介護休業中の割合は、フルタイムとフルタイム以外を含め6.7%となっています。

また、父親の就労状況は、「フルタイム（育休・介護休業中ではない）」の割合が89.6%と最も高くなっています。

母親 (n=1,432)



父親 (n=1,432)

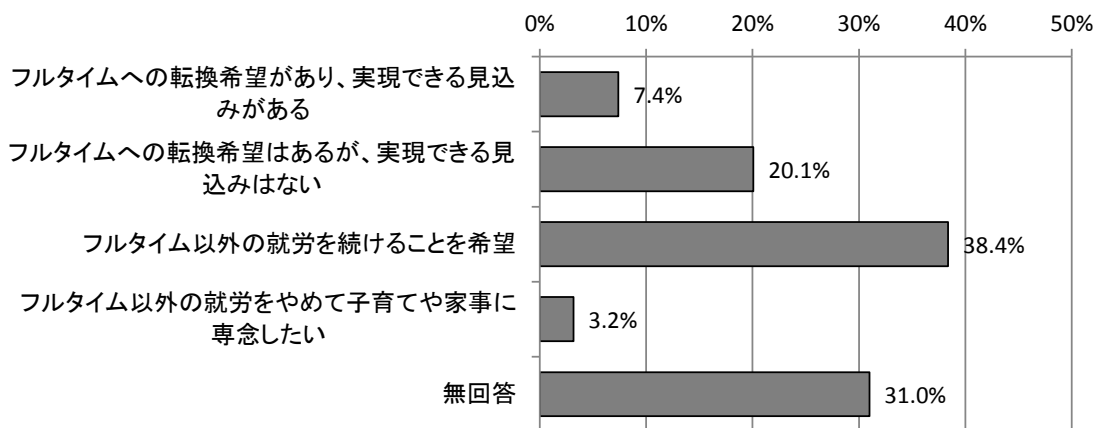


3-2. パート・アルバイト等で就労している人のフルタイムへの転換希望

フルタイム以外で就労している母親のフルタイムへの転換希望は、「フルタイム以外の就労を続けることを希望」の割合が38.4%と最も高く、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」の割合は20.1%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」の割合は7.4%となっています。

また、フルタイム以外で就労している父親のフルタイムへの転換希望は、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」「フルタイム以外の就労を続けることを希望」の割合がそれぞれ25.9%で最も高くなっています。

母親 (n=1,432)



父親

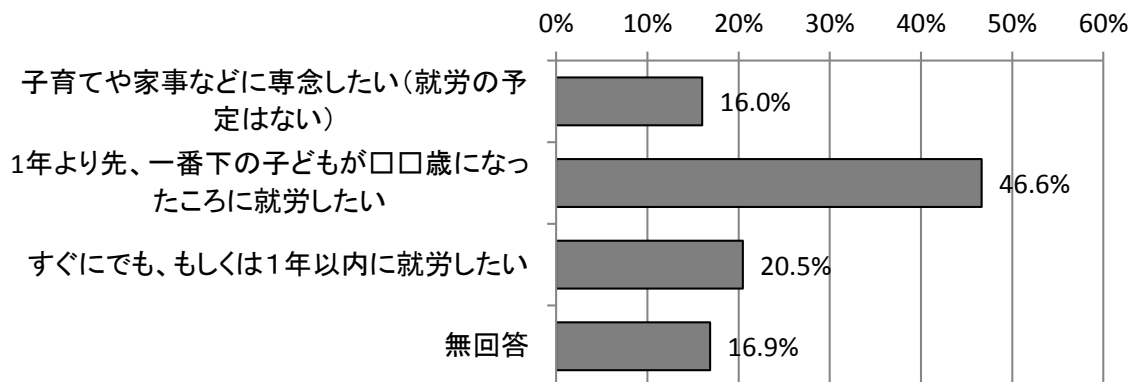
項目	度数	構成比
フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある	2	7.4%
フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない	7	25.9%
フルタイム以外の就労を続けることを希望	7	25.9%
フルタイム以外の就労をやめて子育てや家事に専念したい	0	0.0%
無回答	11	40.7%
回答者数	27	
非該当	1,405	
合計	1,432	

※母集団が少ないため、グラフは省略します。

3-3. 就労していない人の就労希望

現在就労していない母親の就労希望は、「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったころに就労したい」が46.6%と最も多く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が20.5%、「子育てや家事などに専念したい」が16.0%となっています。

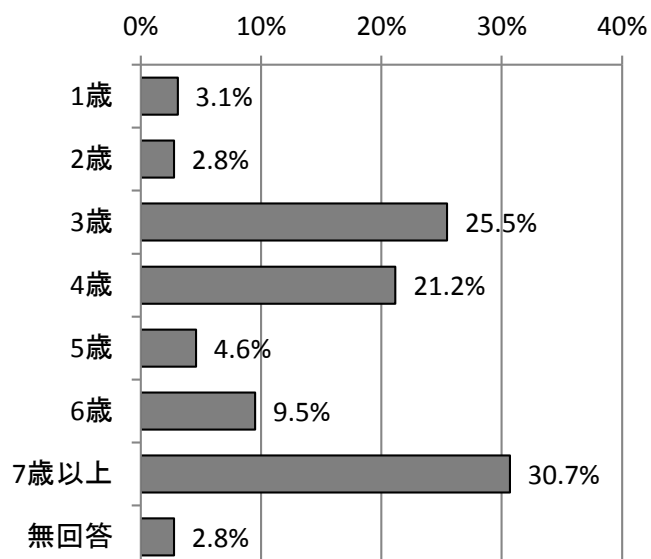
母親(n=699)



3-4. 就労していない人の就労を希望する時期

就労を希望する時期（一番下の子どもの年齢）は、「7歳以上」の割合が30.7%と最も高くなっています。

母親(n=326)

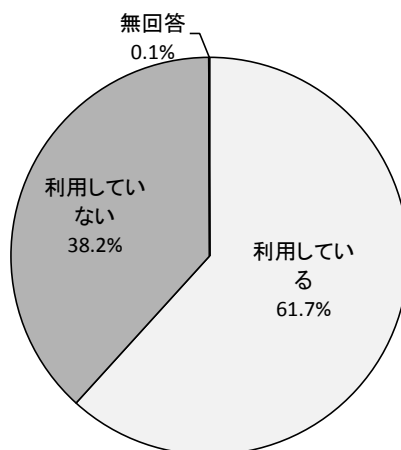


4. 子どもの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

4-1. 幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」の利用

定期的な教育・保育の事業を「利用している」が 61.7%、「利用していない」が 38.2%となっています。

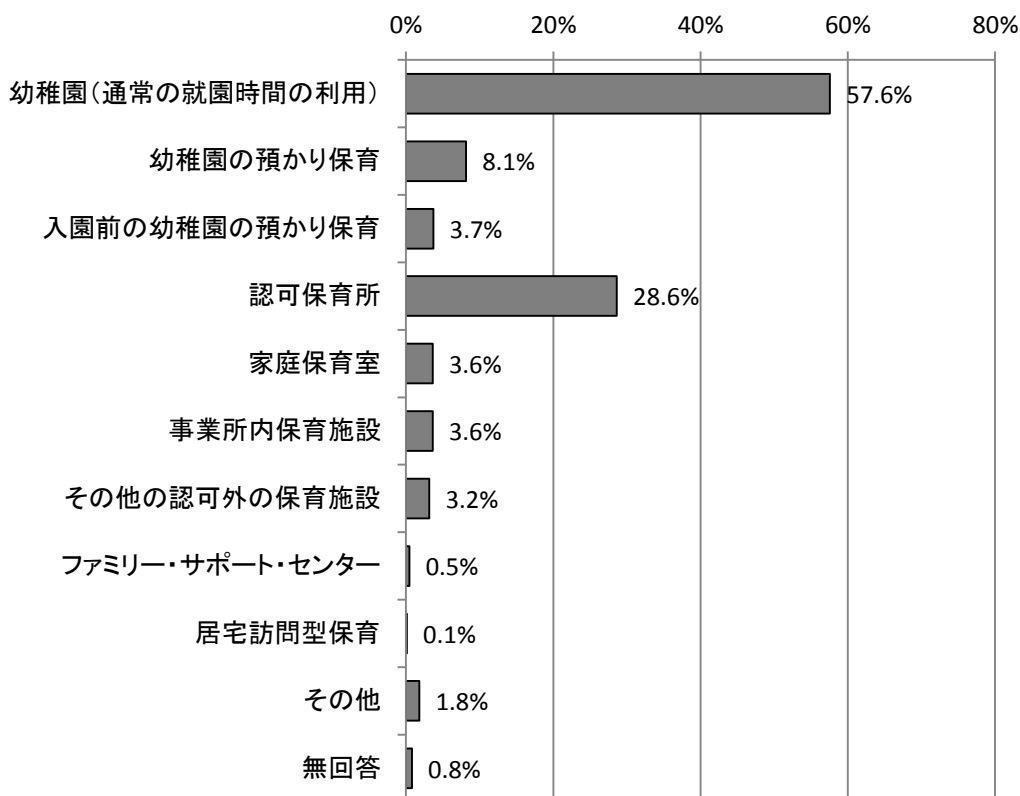
(n=1,432)



4-2. 利用している事業（複数回答）

平日の教育・保育の事業の利用種別は、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が 57.6%と半数強を占めており、次いで「認可保育所」の 28.6%、「幼稚園の預かり保育」の 8.1%となっています。

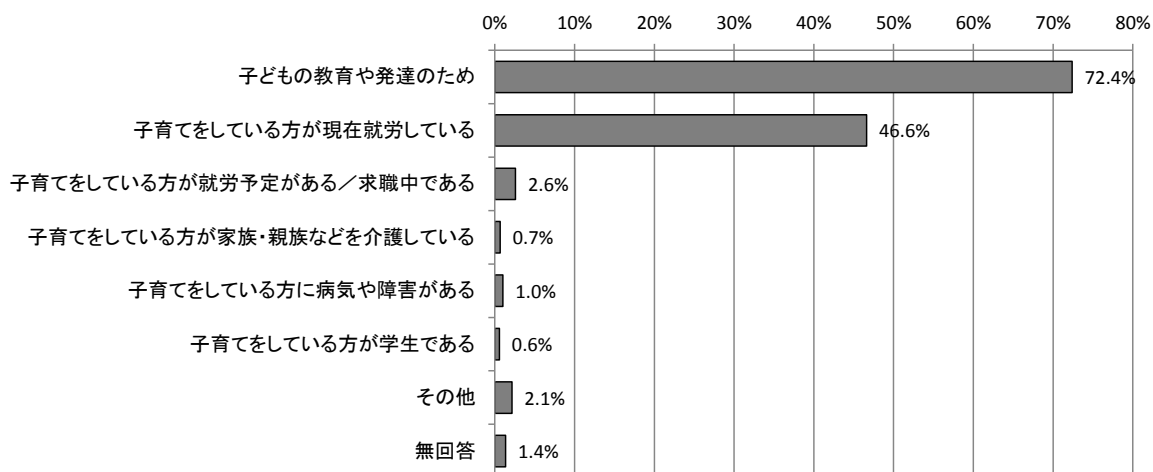
(n=884)】



4-3. 事業を利用している理由（複数回答）

平日に定期的に教育・保育の事業を利用している理由は、「子どもの教育や発達のため（72.4%）」
「子育てをしている方が現在就労している（46.6%）」の割合がいずれも高くなっています。

(n=884)

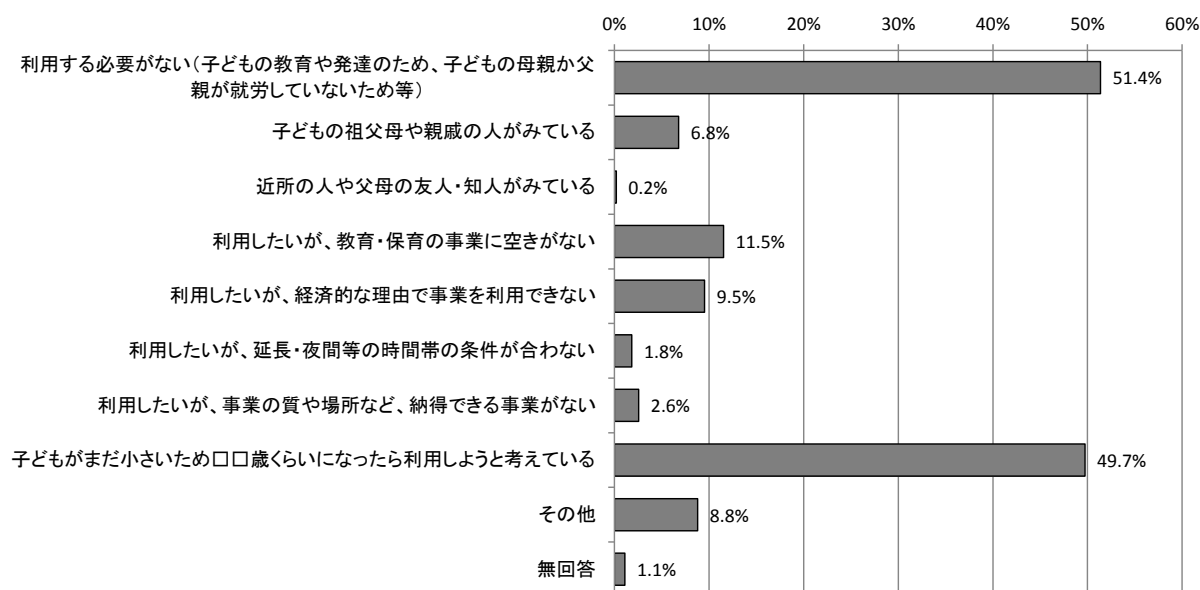


4-4. 事業を利用していない理由（複数回答）

定期的な教育・保育事業を利用していない理由は、「利用する必要がない」の割合が51.4%と最も高くなっています。次いで、「子どもがまだ小さいため□□歳くらいになったら利用しようと考えている」が49.7%となっています。

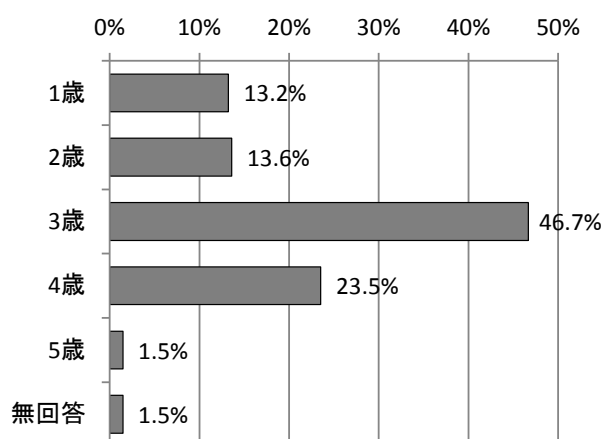
また、教育・保育事業の利用開始年齢は、「3歳」の割合が46.7%と最も高くなっています。

(n=547)



■教育・保育事業の利用開始年齢

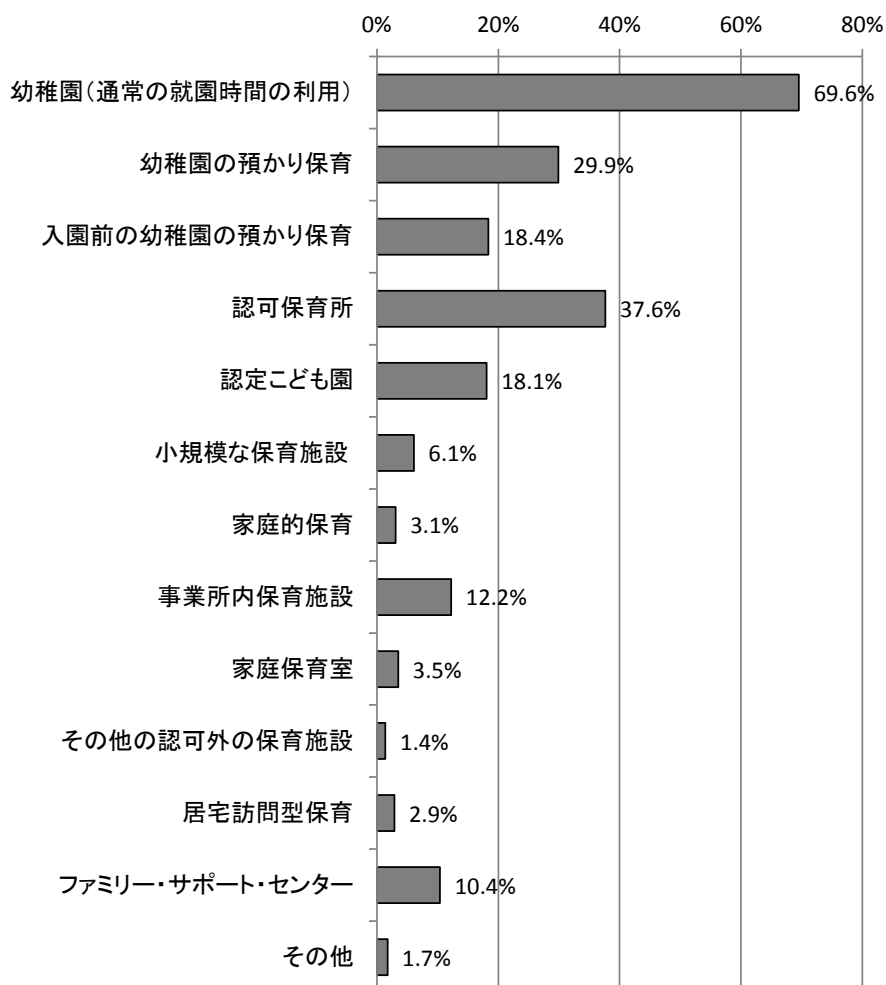
(n=272)



4-5. 平日の教育・保育の事業として、定期的にご利用したいと考える事業（複数回答）

平日の教育・保育の事業の利用意向は、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が 69.6%と最も多くなっています。次いでは「認可保育所」が 37.6%、「幼稚園の預かり保育」が 29.9%、「認定こども園」が 18.1%となっています。

(n=1,432)

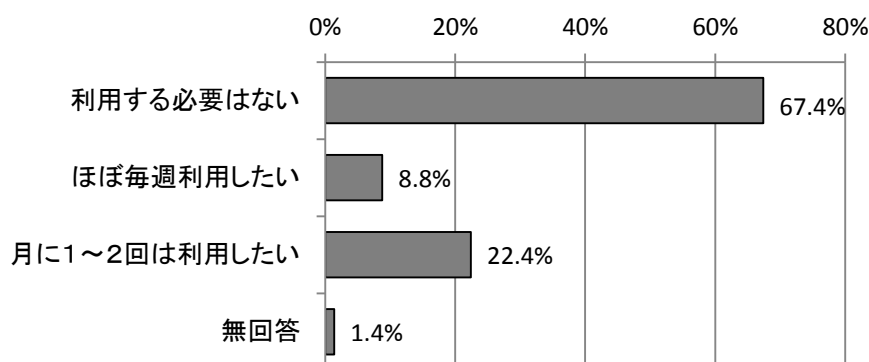


5. 土曜・日曜や長期休暇中の保育事業の利用希望について

5-1. 土曜日の利用希望

土曜日の定期的な教育・保育の事業の利用希望は、「利用する必要はない」の割合が67.4%に対し、「ほぼ毎週利用したい(8.8%)」と「月に1～2回は利用したい(22.4%)」の合計割合は31.2%となっています。

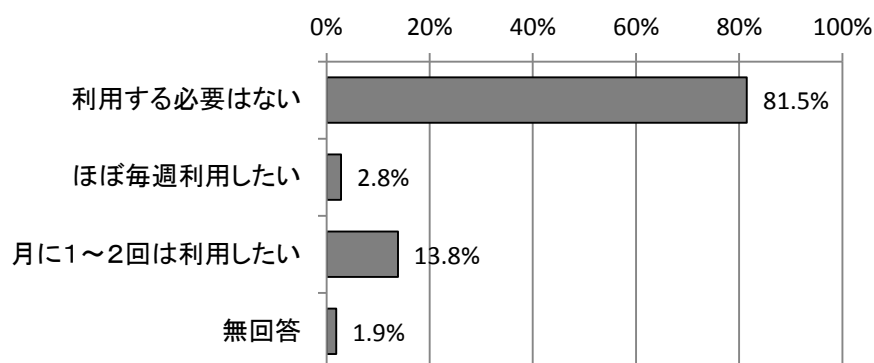
(n=1,432)



5-2. 日曜・祝日の利用希望

日曜・祝日の定期的な教育・保育の事業の利用希望は、「利用する必要はない」の割合が81.5%に対し、「ほぼ毎週利用したい(2.8%)」と「月に1～2回は利用したい(13.8%)」の合計割合は16.6%となっています。

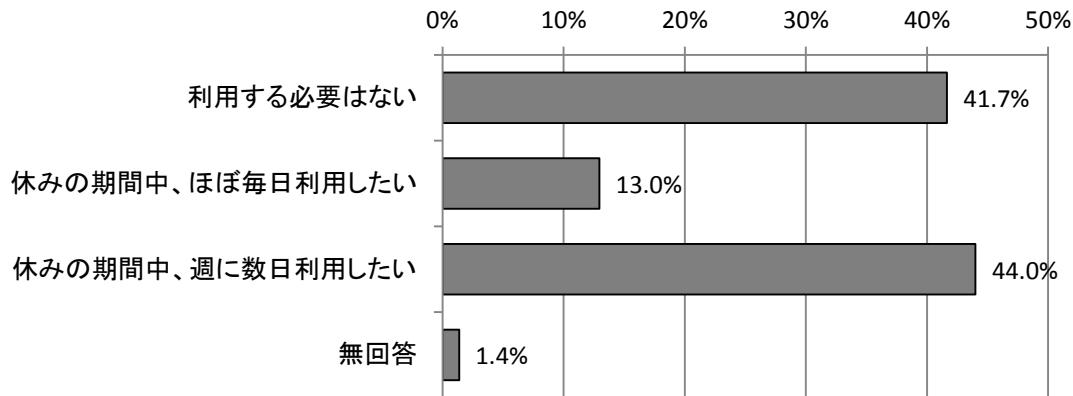
(n=1,432)



5-3. 幼稚園利用者の長期休暇期間中の事業の利用希望

幼稚園利用者の夏休み・冬休みなど長期の休暇中の定期的な教育・保育の事業の利用希望は、「利用する必要はない」の割合が41.7%に対し、「休みの期間中、週に数日利用したい(44.0%)」と「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい(13.0%)」の合計割合は57.0%となっています。

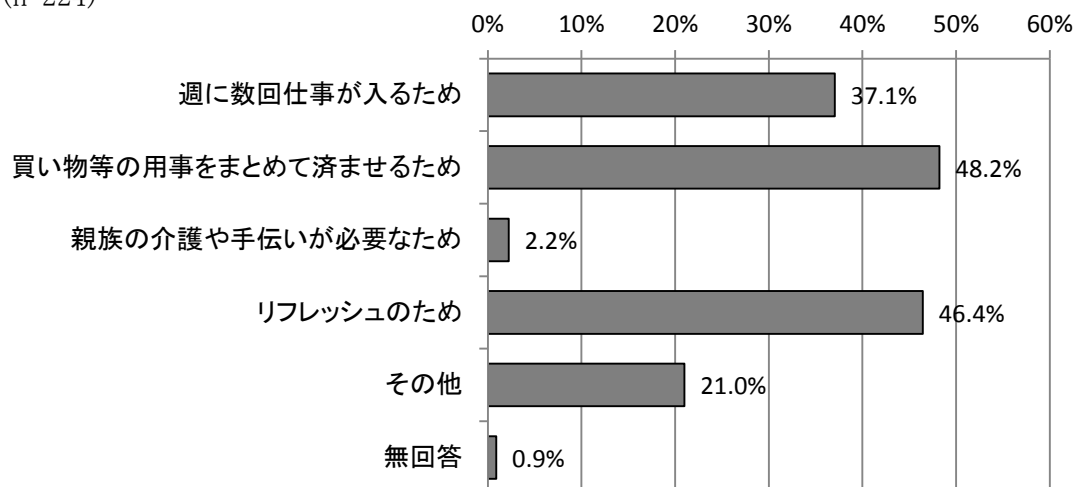
(n=509)



5-4. 「幼稚園」を利用している方が長期休暇期間中、たまに利用したい理由(複数回答)

幼稚園利用者の夏休み・冬休みなど長期の休暇中の定期的な教育・保育の事業を毎日ではなく、たまに利用したい理由は、「買い物等の用事をまとめて済ませるため(48.2%)」「リフレッシュのため(46.4%)」「週に数回仕事が入るため(37.1%)」の割合がいずれも高くなっています。

(n=224)

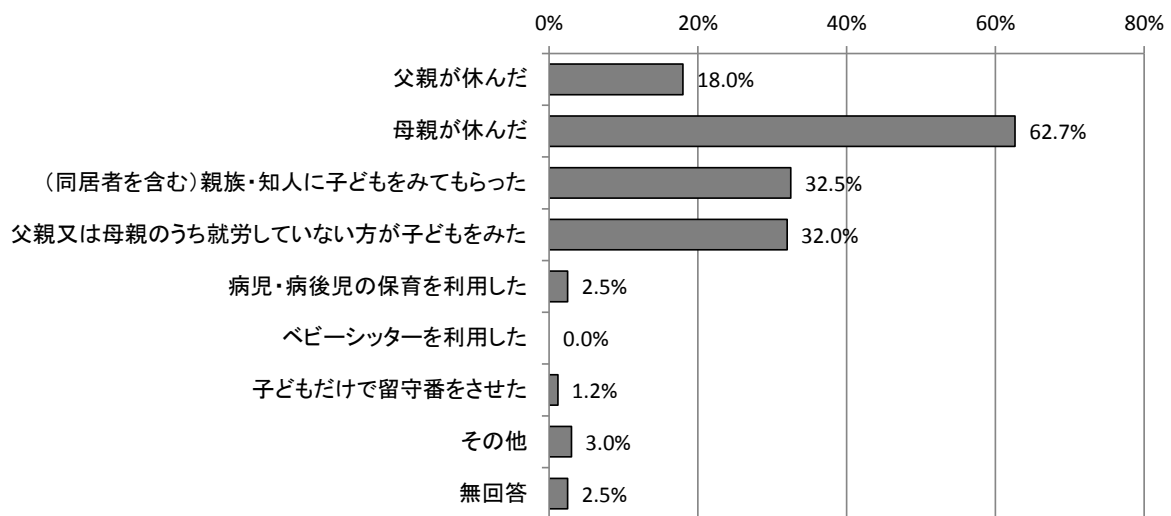


6. 病気の際の対応について

6-1. 事業が利用できなかった場合の対処方法（複数回答）

子どもの病気やケガで通常の事業が利用できなかった場合の、この1年間に行った対処方法は、「母親が休んだ」の割合が62.7%と最も高く、次いで「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が32.5%、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が32.0%、「父親が休んだ」が18.0%となっています。

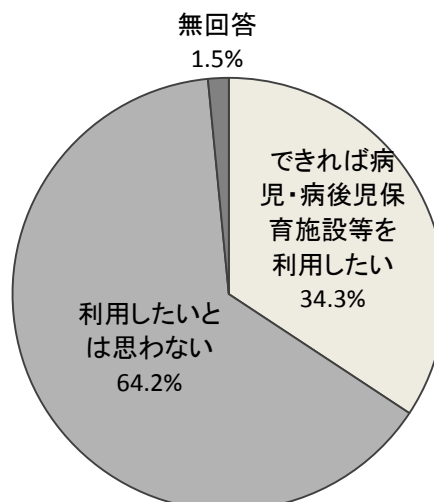
(n=600)



6-2. 病児・病後児のための保育施設等の利用希望

子どもの病気やケガで通常の事業が利用できなかった場合の、病児・病後児保育施設の利用希望は、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」の割合が34.3%に対し、「利用したいとは思わない」が64.2%となっています。

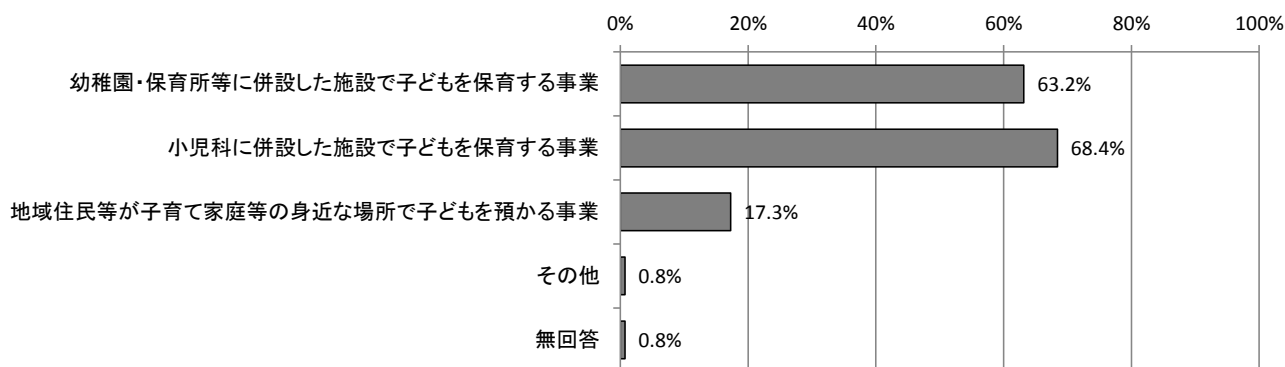
(n=388)



6-3. 子どもを預ける場合の望ましい事業形態（複数回答）

病児・病後児保育施設の望ましい事業形態は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が68.4%と最も高く、「幼稚園・保育所等に併設した施設で子どもを保育する事業」が63.2%と続いています。

(n=133)

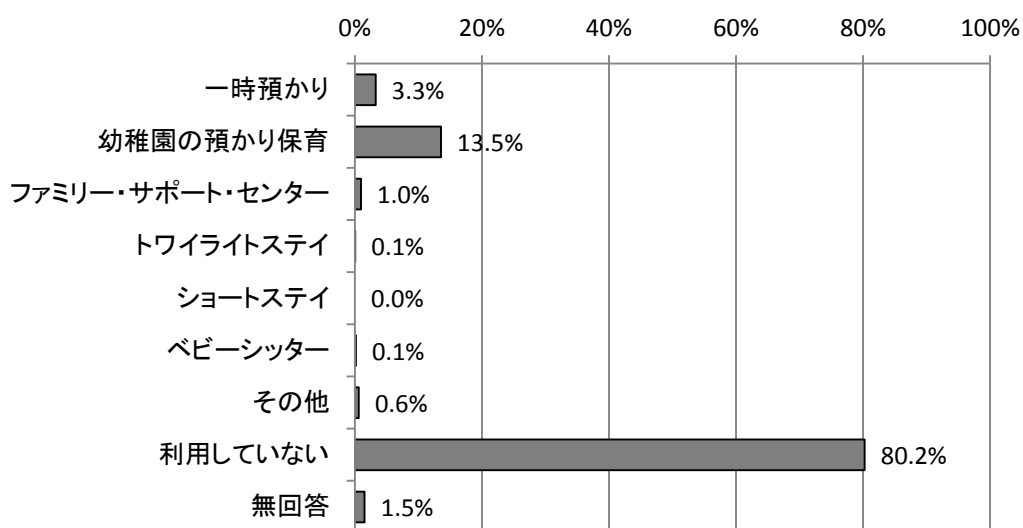


7. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

7-1. 不定期に利用している事業（複数回答）

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業は、「幼稚園の預かり保育」が13.5%と最も多くなっており、「利用していない」は80.2%となっています。

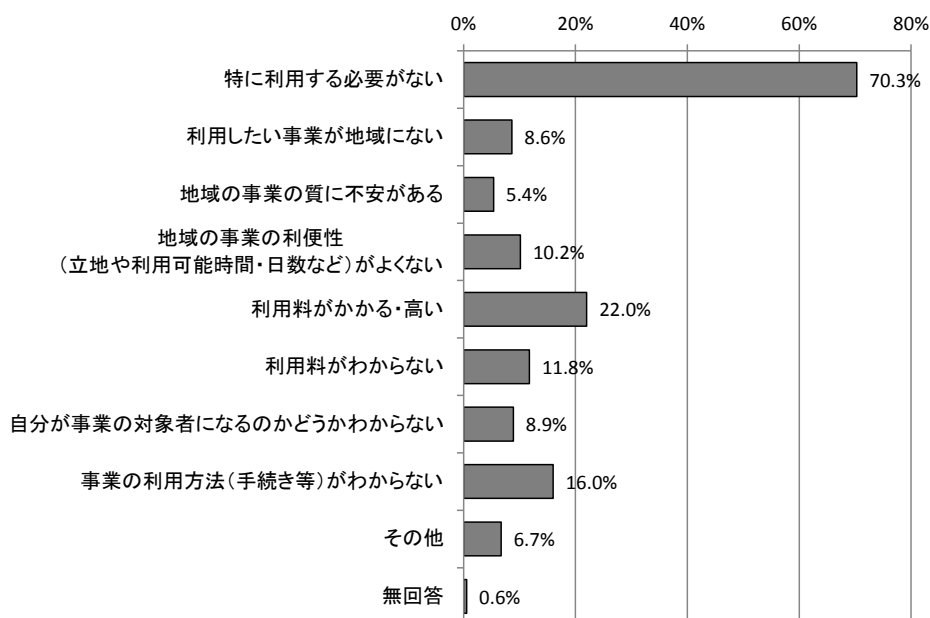
(n=1,432)



7-2. 現在利用していない理由（複数回答）

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に事業を利用していない理由は、「特に利用する必要がない」の割合が70.3%と最も高くなっています。また、「利用料がかかる・高い(22.0%)」「事業の利用方法（手続き等）がわからない（16.0%）」の割合についても比較的高くなっています。

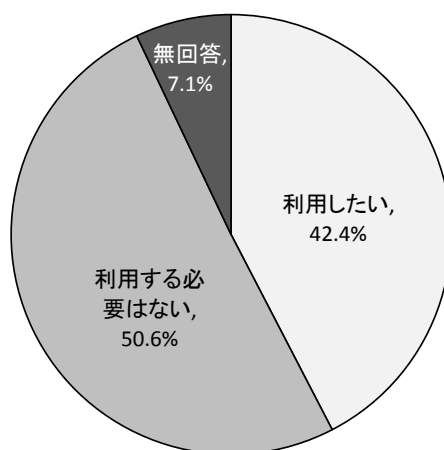
(n=1,249)



7-3. 不定期の保育・教育事業や一時預かり等の利用希望

私用、親の通院、不定期の就労等の目的での事業の利用希望は、「利用したい」の割合が42.4%に対し、「利用する必要はない」が50.6%となっています。

(n=1,432)

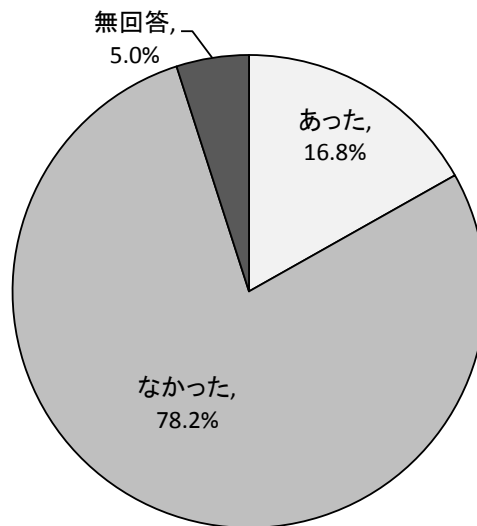


7-4. 子どもを泊りがけで家族以外にみてもらったことがあったか

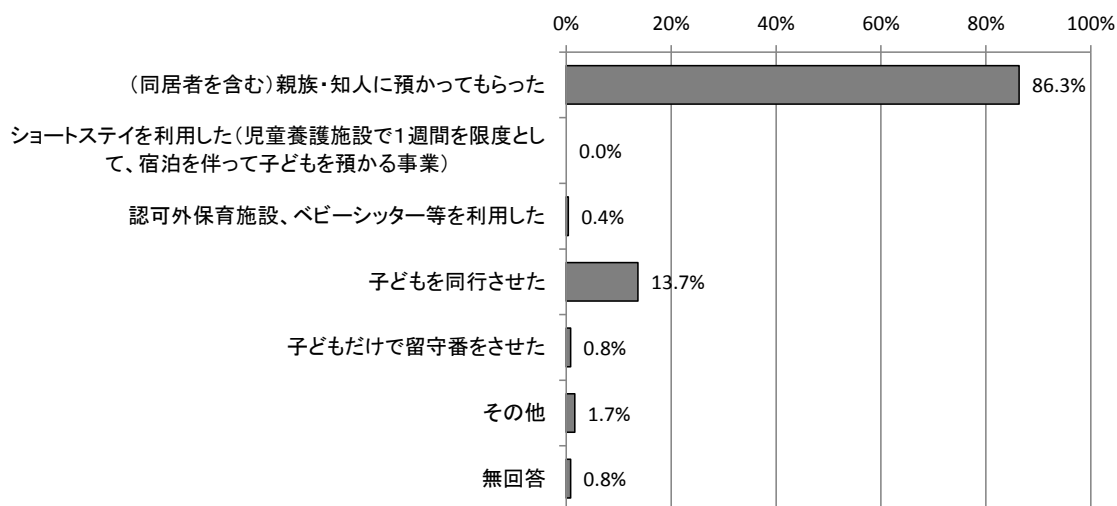
この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことがあった経験は、「あった」の割合が16.8%に対し、「なかった」が78.2%となっています。

また、そのときの対処方法は、「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」の割合が86.3%と最も高く、その年間対処日数は「1日～5日」の割合が67.3%と最も高くなっています。

(n=1,432)



■ 対処法 (n=241)



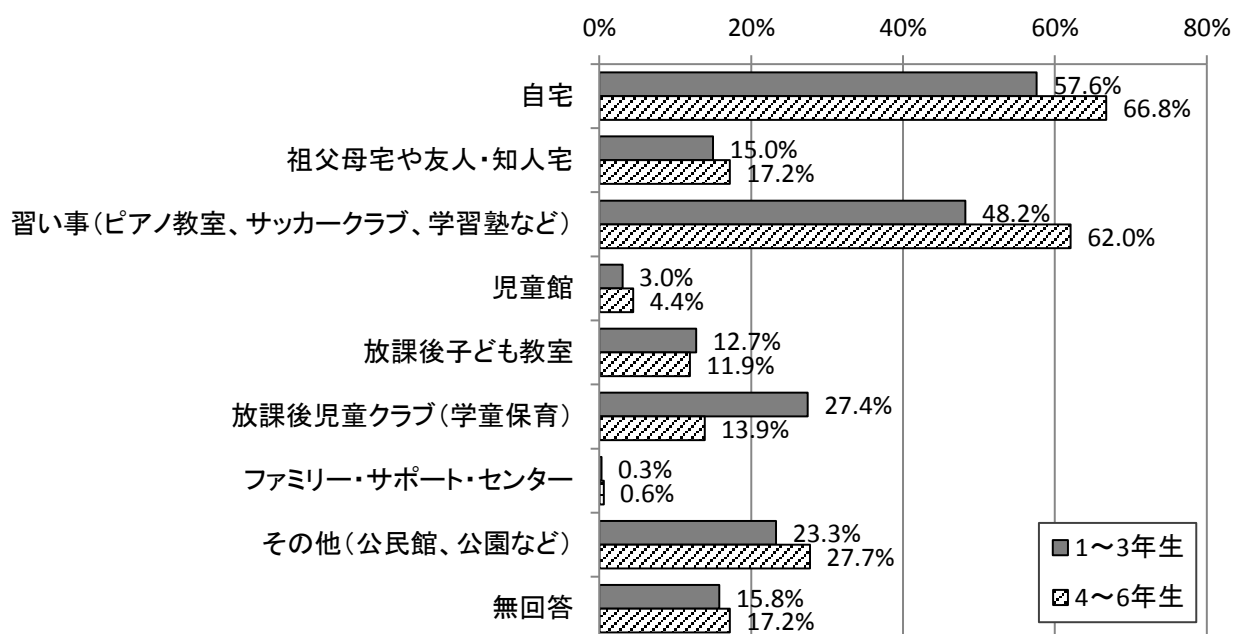
8. 小学校就学後の放課後の過ごし方について

8-1. 放課後の過ごし方

小学校低学年（1～3年生）のうちの希望する子どもの放課後の過ごし方は、「自宅」の割合が57.6%と最も高く、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）（48.2%）」「放課後児童クラブ（学童保育）（27.4%）」の割合も高くなっています。

また、小学校高学年（4～6年生）になったら希望する子どもの放課後の過ごし方は、「自宅」の割合が66.8%と最も高く、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の62.0%と続いています。また、「放課後児童クラブ（学童保育）」の件数は、1～3年生のときと比べ減少し、13.9%となっています。

(n=1,432)

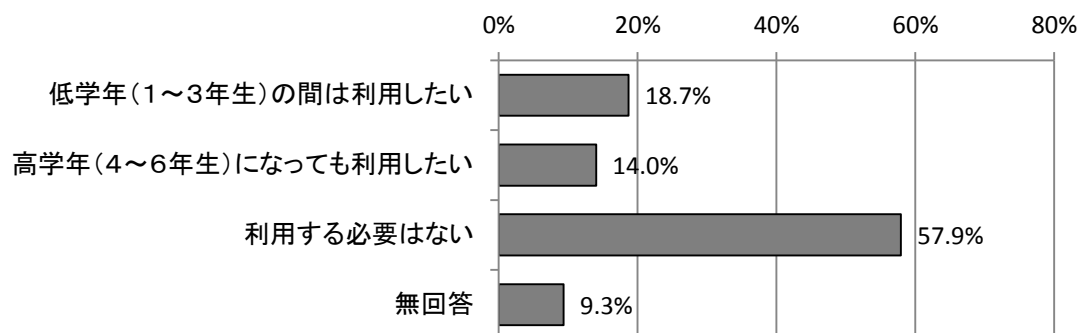


8-2. 土曜日の放課後児童クラブの利用希望

子どもの放課後の過ごし方で、放課後児童クラブ（学童保育）を望んでいる保護者のうち、土曜日の利用希望は、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」の割合が18.7%に対し、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が14.0%となっています。

また、「利用する必要はない」は57.9%と最も多くなっています。

(n=107)

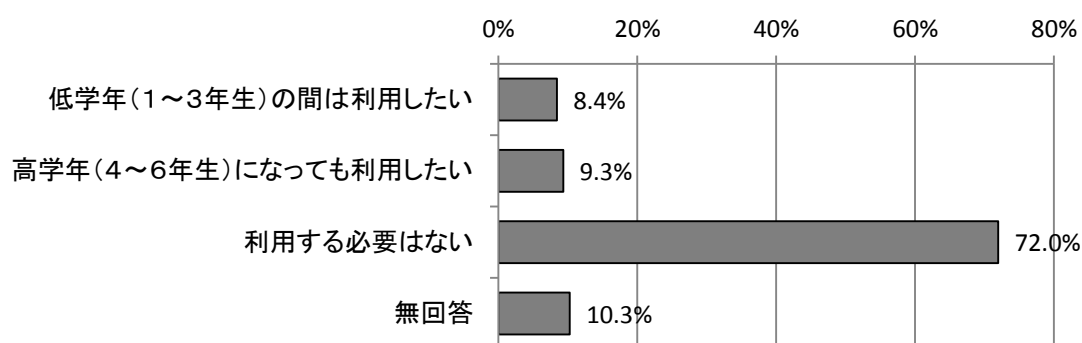


8-3. 日曜・祝日の利用希望

子どもの放課後の過ごし方で、放課後児童クラブ（学童保育）を望んでいる保護者のうち、日曜・祝日の利用希望は、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」の割合が8.4%に対し、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が9.3%と1割未満となっています。

また、「利用する必要はない」の割合は72.0%と最も多くなっています。

(n=107)



9. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

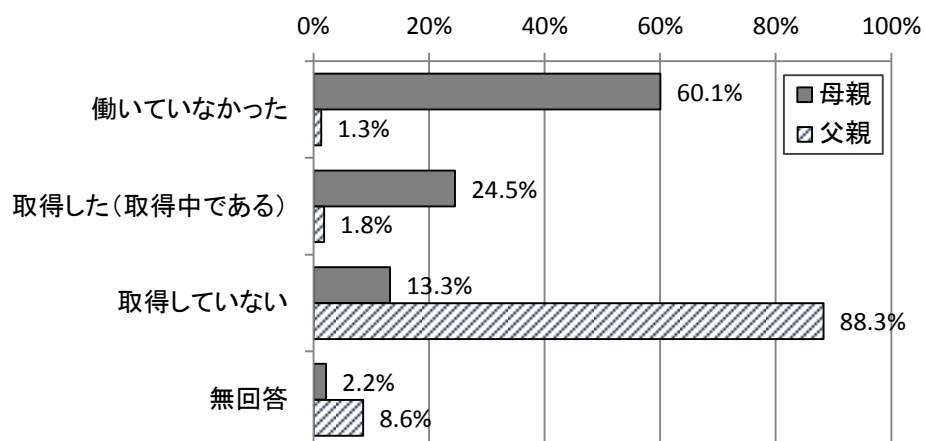
9-1. 父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得したか

子どもが生まれたときの育児休業の取得状況は、「取得した（取得中である）」の割合は、母親が24.5%に対し、父親は1.8%と、父親の取得割合が低くなっています。

また、「働いていなかった」の割合は、母親が60.1%に対し、父親が1.3%となっています。

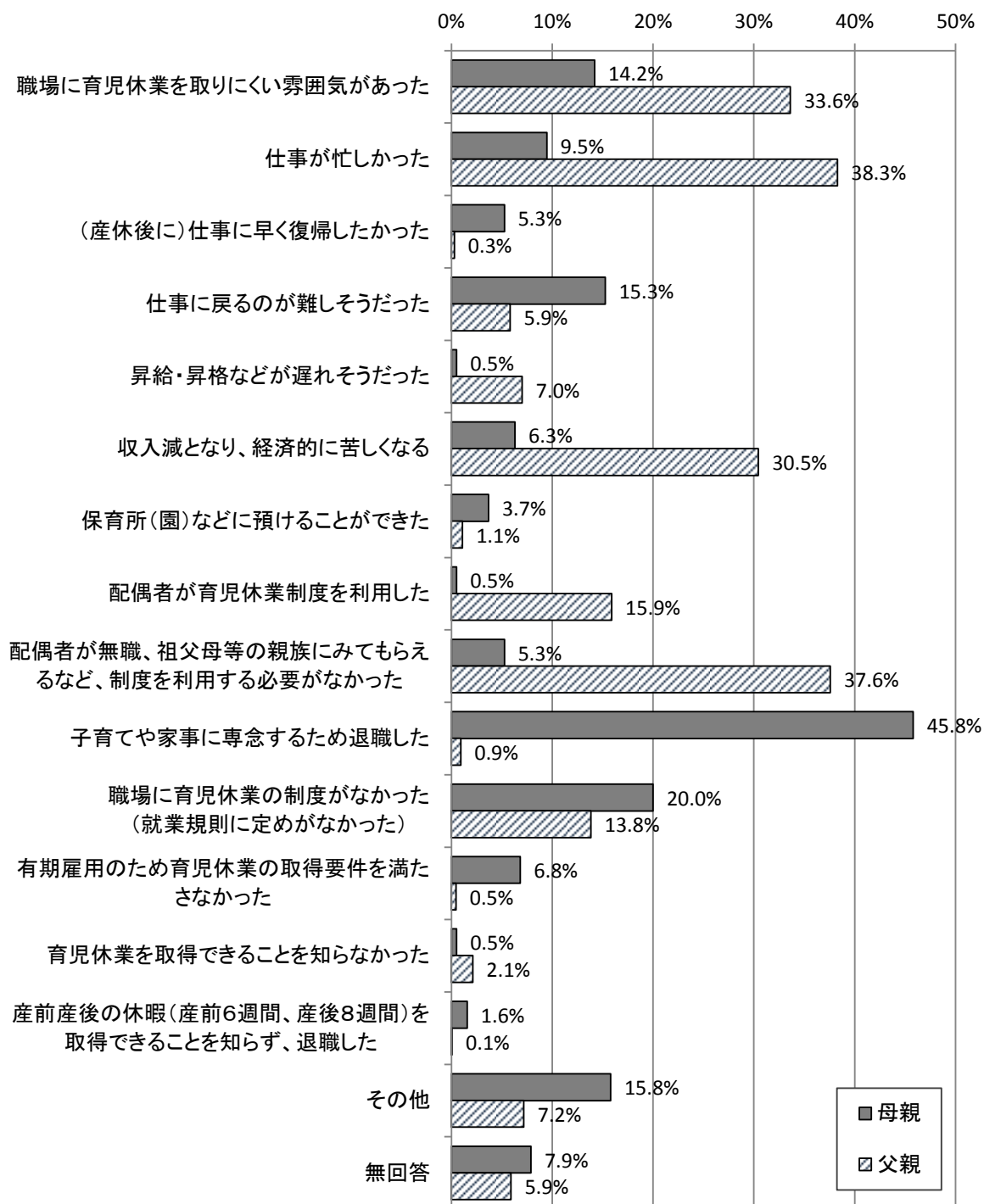
さらに、育児休業を取得していない理由は、母親では、「子育てや家事に専念するため退職した」の割合が45.8%と高く、父親では、「仕事が忙しかった（38.3%）」「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった（37.6%）」「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった（33.6%）」「収入減となり、経済的に苦しくなる（30.5%）」の割合がそれぞれ3割を超え比較的高くなっています。

(n=1,432)



■ 育児休業を取得していない理由（複数回答）

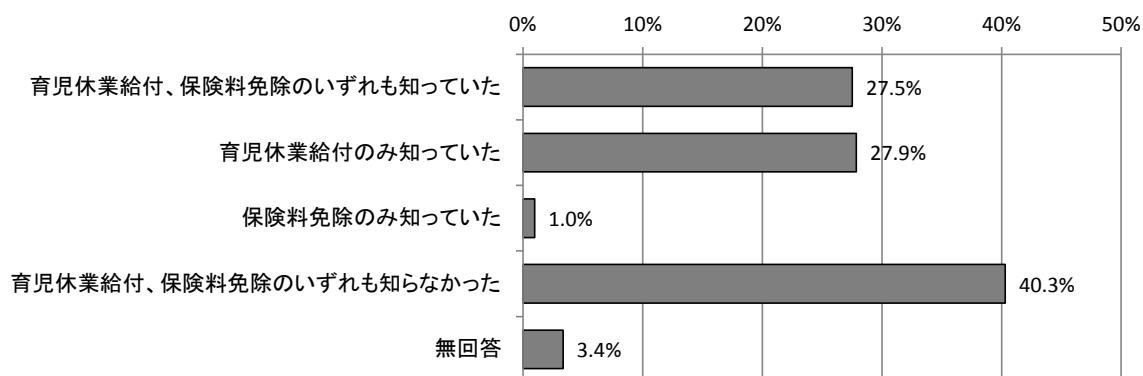
母親 (n=190)、父親 (n=1,264)



9-2. 育児休業給付と保険料免除の認知度

育児休業給付が支給される仕組み、健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みの認知度については、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」の割合が40.3%と最も高く、「育児休業給付のみ知っていた」は27.9%、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」は27.5%となっています。

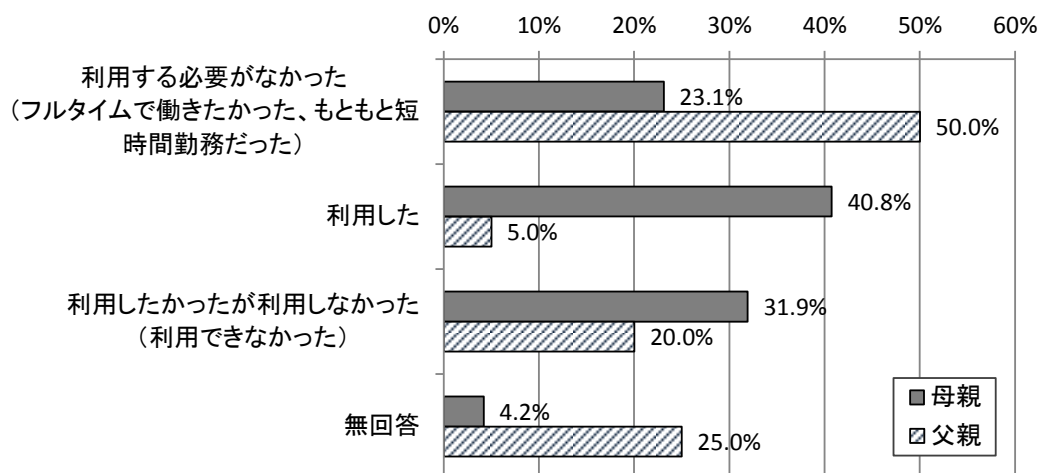
(n=1,432)



9-3. 短時間勤務制度の利用

育児休業からの職場復帰時の短時間勤務制度の利用状況は、母親では、「利用した」の割合が40.8%に対し、「利用しなかったが、利用しなかった（利用できなかった）」が31.9%と、利用した割合がやや上回っています。また、「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）」の割合は23.1%となっています。

母親 (n=238)、父親 (n=20)



9-4. 川越市の子育ての環境や支援への満足度

住まいの地域における子育て環境や支援への満足度は、「満足度1（14.7%）」と「満足度2（26.5%）」の合計が41.2%に対し、「満足度4（14.7%）」と「満足度5（2.1%）」の合計が16.8%となっています。

【就学前（n=1,119）】

